



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Follow Your Rotary Dream

「ロータリーの夢を追い続けよう」

1998～99年度・国際ロータリーテーマ/ジェームス・レイシー会長

「明かるいクラブと豊かな人生」

1998～99年度・東京新南ロータリークラブテーマ/宮武 保義会長

本日の例会 10月9日 第579回例会

卓話

「旅と色」

多摩美術大学教授
日本画家

中野 嘉之氏

先週報告 10月2日 第578回例会

創立12周年記念例会

◎幹事報告

10月16日(金)のクラブ協議会は「見直そう、ロータリーの職業奉仕」をテーマとして開催します。参加下さい。

◎委員会報告

☆雑誌委員会(谷村委員長)

「ロータリーの友」10月号読みどころ紹介

今月は職業奉仕と米山月間にあたります。ガバナーのページに第2750地区村野ガバナーをはじめ、各ガバナーの考えが載っていますので是非参考にして下さい。

☆職業奉仕委員会(宮本委員長)

10月30日(金)例会後、富士ゼロックス海老名工場見学会と中華街での懇親会に参加をお願いします。

☆社会奉仕委員会報告

9月27日(日)風の子会・車いすサポートボランティア「障害者は外に出よう」は、残念ながら雨天のため中止となりました。

◎慶事披露

●誕生日祝い/松原秋夫君(10月6日)、渡部一元君(10月8日)

●100%出席/馬場一廣君、入沢頼二君、吉田用親君(12年)、小杉眞史君(3年)

◎出席報告

●会員73名/出席50名・欠席23名(出席規定免除者3名)

●ビジター9名(敬称略・順不同) 酒井田正宏(ハウステンボス佐世保)、島津久厚(宮崎都城)、森 浩生(東京)、大谷昌彦(東京城東)、石黒 康(東京五反田)、柏木秀丸(東京日本橋)、小見山了一、高橋 良、子安敏三(以上東京南)

●ゲスト1名 李承福君(米山奨学生)

新会員・友もあ会の集い

9月30日(水)午後6時半より、元ホテル・オークラのソムリエだったフランス人が経営する、神楽坂のフランス料理店で、第2回目の「友もあ会」が開催されました。雨もよりのぐずついた天気の中、小原親睦委員長を含め6名の会員の出席を得ました。

まず、小原委員長からは、ロータリー活動を最初からあまり一生懸命やろうとすると長続きしない恐れがあるので、無理はしないようにという有り難い助言があり、我ら新会員一同ほっとしました。その後、福島会員からの「友もあ会」の名付け親で当会副会長である水原会員の近況報告、女性会員の是非に関する喧喧諤諤の議論、最近亡くなった黒澤明の思い出に始まり、小杉会員から映画評論家の淀川長治、水野晴男、小森のおばちゃま等の寂しい現状を聞き、複雑な気持ちになりました。話題はクリントンの不倫問題に及び、日本人、アメリカ人、フランス人の国民性の違いなどに関しても意見が交換され、新会員同士の親睦を深める上で本当に有意義な会でした。

今回の幹事は私、副幹事はConsigny会員が勤めましたが、3回目は幹事と副幹事をそれぞれConsigny会員と石川会員にバトンタッチし、11月24日(火)の午後6時半に開催することが満場一致で決定されました。今回参加した会員は勿論、参加できなかった会員も是非次回は参加して下さいをお願いします。(圓谷記)

出席者:小原(健)、福島、小杉(修)、石川、Consigny、圓谷



次週予告 10月16日 第580回例会

◎卓話予定

「長瀬富郎のロータリー観」

第2590地区パストガバナー

川崎北ロータリークラブ会員 津田 進氏
(医療)津田病院院長

◎第3回クラブ協議会

テーマ「見直そう、ロータリーの職業奉仕」

例会後13:40～15:00 八雲の間

「ロータリーについて思うこと」

当クラブ初代会長

第2750地区パストガバナー

田辺 賢三



1986年10月、創立会員の皆さんと共にわが東京新南クラブを結成し、その後私たちの仲間に加わって下さった会員の方々と共に、今日まで12年間ロータリーの「親睦と奉仕」の道を歩んで来ました。

一昨年当クラブが主催した千代田区分IMでは「ロータリーの今日的課題」を提示して区内各クラブ代表にご討議頂き、クラブ10年の歴史の成果を確認しましたが、昨年度はクラブ・セミナーやフォーラムで、更に各論の掘下げを試みました。

今日はそのような課題を論ずるのはやめて、クラブ12周年記念日に際し、他の奉仕団体と大きく異なるロータリーの理念、ロータリーの志すところを振り返り、ロータリーに対する誇りと自信を確認したいと思います。

第一にロータリーが他の奉仕団体には見られぬ高邁な理念「奉仕の理想」を掲げていることです。ロータリーがこの理念を綱領の中に謳ったのは1922年の綱領が初めてですが、創立3年目の1908年から「超我の奉仕」"Service above Self"というようなモットーの下で「個人の奉仕」を志し、その個人生活、職業生活、社会生活に「奉仕の理想」を適用することを目指してきたのです。

他の殆どどの奉仕団体は団体奉仕を掲げ、目に見える成果重視の社会奉仕に専念しております。それはそれで大変立派な奉仕活動に違いありません。ただ同じ奉仕団体の範疇に入っている、ロータリーは理念や行き方が大きく違うのです。

ロータリーに倣って、あとから創立されたライオンズが今や会員数やクラブ数でロータリーを追い越して、世界一規模の奉仕クラブであることを口惜しがって競争意識を燃やすロータリアンも少なからず居ようですが、理念、行き方が異なるのですから、私達は組織の大小など気にすることはない。金銭的、数量的な目に見える成果に拘らず、奉仕の理想を追い続けることを誇りにしたいと思います。

第二はロータリーが「職業奉仕」をその中心的奉仕分野としていることです。これは他のいかなる奉仕団体にも見られないロータリー独自の奉仕概念です。一業種一会員の会員限定制で出発したクラブであり、会員の親睦と職業上の相互扶助とを目的としたロータリーが「職業を通ずる奉仕」の概念に思い到ったのは1908年でした。そしてロータリーがこれを「職業奉仕」としてロータリーの奉仕活動の中心に据えたことは、正に卓見であったと思います。

実業人、専門職の会員が夫々職業倫理を高め、職業を通じ奉仕を推進し、且つこの考えを社会に広めて行くことが社会を向上させ、社会に奉仕することになると考えたのです。職業人として常住座臥実行できる最も基本的な個人奉仕で、ロータリーが誇り得る指導理念だと思えます。

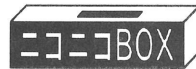
第三は、ロータリーの「親睦」重視の考えです。

奉仕団体でも「クラブ」制をとるところは、会員の親睦を大切する筈です。しかし当初より団体による社会奉仕をモットーとして結成されたクラブは、どうしても社会奉仕の成果重視となるのも自然かもしれません。団体的社会奉仕（国際奉仕を含む）に専念するとなれば資金が必要であり、それは会員の寄附に頼らざるを得ません。例会は寄附要請の場となり、それに不満な会員は例会に来なくなるという話を聞きました。それでは親睦はどうなるでしょうか。

ロータリーは奉仕団体として出発したわけではありません。親睦と相互扶助を目的として結成されたクラブでした。従って当初は会員の親睦に専念し、相互扶助に打ち込みました。そこから職業を通ずる奉仕の観念が生じ、又奉仕一般の概念へと発展して行っただけでした。

ロータリーでは親睦が先で、奉仕はあとから自然発生したのです。親睦が重視される所以であり、「親睦と奉仕」を車の両輪と考える奉仕団体はめったにないのではないのでしょうか。

ロータリーが誇るに足る諸点のうち、以上三つの基本的な特色をあげました。ロータリーは右顧左眄することなく、独自の道を守って行きたいと思えます。



10月2日／16件 50,000円
98～99年度累計 555,000円
多額のご寄付を有難うございます。

（順不同敬称略）

大谷昌彦（東京城東）／設立記念日おめでとうございます。青野信次／12周年おめでとうございます。田辺さん本日の卓話楽しみです。武下 朗／12周年を心からお祝いしたいと思います。小杉修造／創立12周年おめでとうございます。宮本正祥／12年間楽しませていただきました。吉田用親／12年間お世話になりました。梶内滋男／創立記念日太陽も祝っています。渡邊 治／①当クラブ設立12周年記念おめでとうございます。②風の子会主催「身障者は外へ出よう」運動がまたぞろ雨のため中止になりました。待機しておられた関係者の皆様残念でした。馬場一廣／100%出席ありがとうございました。入沢頼二／100%出席ありがとうございました。小杉真史／3年間のごほうびを頂きました。有難うございます。土屋東一／久しぶりの晴天にお祝いです。大村富俊／皆様大変ごぶさたしております。加藤昌明／吉岡さんにおつきあいして。新保國彦／吉岡さんの笑顔に誘われて。吉岡琢磨／久しぶりのニコニコ、皆様御協力有りありがとうございました。

東京新南ロータリークラブ

会長：宮武保義 副会長：小澁雅亮 幹事：大日方真
〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階
TEL：03-3505-5976 FAX：03-3505-6004
例会日：毎週金曜日 12時30分
例会場：東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL:03-3505-1111

<会報委員>

田中 武、小杉 真史、小原 渉、
開発 英基、柴田 尚毅、大山 啓人、
T. CONSIGNY、水原信太郎、谷 義一、
金光 圭一、大村 富俊、村山 公士
（編集担当順）